

セラミックス岡山

CERAMICS OKAYAMA

OKAYAMACERAMICS CENTER

(岡山セラミックスセンター)

財団の主な活動内容について



一般財団法人岡山セラミックス技術振興財団

理事長 矢吹 巧

当財団の運営に当たり、平素から格別のご理解とご協力を賜っておりますことを、この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

ご承知の通り、耐火物は、鉄やセメント、ガラスといった社会生活を送る上で必要となる素材を作り出すために不可欠な役割を果たしており、縁の下の力持ちとして日本の物づくりを支えています。

岡山セラミックスセンターは、国内唯一の耐火物に関する公的研究機関であり、当財団はその指定管理者として、耐火物評価技術の研究開発や共同・受託研究等の物づくり、様々な機器を活用しての高精度な評価（分析・測定）、専門書籍の発行や各種セミナーの開催による人材育成を通じて耐火物及びその関連産業の支援を行っています。

今回の「セラミックス岡山」発行にあたり、当財団における現在の主な活動内容についてご紹介させていただきます。

まず、物づくりにおける研究開発ですが、従来から進めている高機能耐火材料開発について、リサイクル原料の活用と高周波誘導炉を利用した低コスト化についてなど様々な研究を行っています。

現在、耐火物の主な使用先である鉄鋼業界では、国際競争力の向上を目指して高付加価値化へのシフトが進むなか、水素を還元剤として活用する製鉄プロセスや電気炉への転換などといった脱炭素社会の実現への対応やSDGsへの取組が急務となっています。それに呼応して、当財団では、耐火物の新評価技術の確立に向け、「超高速加熱技術」を活用した接触角測定及び熱伝導率測定の開発を進める中で水素雰囲気下での測定も加えるとともに、一酸化炭素・水素混合ガスなどによる耐火物の耐食性を評価するための合成ガス炉システムの確立等脱炭素、循環型社会の構築に向けた研究を進めてまいります。

次に、測定分析では、例年13,000件を超える依頼分析を行っています。10月には分析機能紹介セミナーを実施し、財団が新規に導入した装置の紹介や見学会を実施しました。今後とも、利用者への的確なデータの提供に努めるとともに、新たな分析手法の確立を図ってまいります。

人材育成ですが、昨年までは残念ながらコロナ感染症予防の観点から縮小せざる得なかったところがありましたが、今年度からは、従来から行っている耐火物の基礎学問など初心者向けの研修から中堅の技術者向けの人材養成に向けたセミナーを充実させて実施しました。また、来年2月には新たに「温度測定と制御セミナー」を実施することとしており、実務的な研修についても充実させてまいります。

最後になりますが、当財団の業務内容のほか耐火物について広く知ってもらうため、情報発信の強化を進めています。毎月1回、メールマガジンにより技術情報を発行するとともに、昨年7月からYouTubeによる動画配信を行っています。ご覧頂き、岡山セラミックスセンター及び当財団の理解に繋がれば幸いです。

皆様方には、引き続き、当財団を積極的にご利用頂くとともに、ご支援賜りますようお願い申し上げます。